吉野だより

YSN 8300

吉野町 8300 の人と暮らし

吉野大峯世界遺産登録 10 周年記念

02

2015 spring

特集：春の吉野山

『吉野だより YSN8300 ～吉野町8300の人と暮らし～』2015年春号

梅の蕾もほころび始め、春が待ち遠しい季節となりました。皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本町へのご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「吉野だより YSN8300」は、創刊準備号から数え、3回目の発行を迎えることができました。この場を借りて、手にとって読んでくださる皆様方に、心より御礼を申し上げます。

今回の吉野だよりでは、「春の吉野山」にまつわる話題を集めました。紙面を8ページに拡大し、さらに盛りだくさんの内容でお届けしています。特集1のテーマは、「吉野山の桜を守る」です。吉野山の桜には、数々の困難を乗り越えてきた歴史がありました。「吉野山保勝会」のみなさんに、これまでの歴史と桜への思いを教えてもらいました。また、日々、桜の手入れを行う「桜守さん」にもお話を聞きに出かけました。そちらもあわせてお楽しみください。

吉野山春の伝統行事「花供懺法会」。その先頭で奴踊りを披露するのは、地元吉野山の若手で結成される「奴保存会」のみなさんです。特集2では「吉野山の伝統を継ぐ」というテーマで、お話をうかがいました。

吉野山の桜は、多くの人の思いで支えられています。そのまなざしは、ふわりと吹く春風のように優しく暖かいものです。「春の吉野に出かけよう」。本誌がみなさまにとって、そんなきっかけになることができましたら、幸いです。

「吉野だより」の取材と編集は吉野町地域おこし協力隊の2人が結成した、吉野をデザインして楽しむ『ねじまき堂』が担当いたします。

吉野山の桜を守る

「日本人の心につながる桜はこれや、というのをきちんと守っていかなあかん」。そう語るのは、公益財団法人吉野山保勝会の理事長福井良盟さんです。吉野山保勝会は「一目千本」とも謳われる3万本の山桜と世界遺産である数々の文化財を守るため日々活動しています。小雪舞う2月のある日、理事のみなさんにお集まりいただきお話をうかがいました。

左から吉野山保勝会 理事長の福井良盟さん、副理事長の藤井泰育さん

吉野山保勝会の成りたち

ねじまき堂（以下ねじ）：吉野山保勝会ができたのは、いつ頃のことですか。

福井：できたのは、大正3年（1914）。それまでにいろんな経緯がありました。明治元年（1868）に「神仏分離令」というのが出たのは知っているでしょ。

ねじ：はい。

福井：それから「修験道廃止令」が、明治5年（1872）に出た。修験道をこれから一切やってはいけないという政府命令。ところが、桜は蔵王権現さま（修験道のご本尊）のご神木だから。守っていたら、政府の意向に逆らうことになる。

ねじ：えー。そんな…。

福井：廃仏毀釈の流れのなかで吉野山の親分連中は大慌て。一時はやっぱり命令に逆らうわけにはいかんと、桜の木を全部切ることに決めた。

ねじ：大ピンチですね。

福井：その時、たまたま大阪の商人がやってきて「その桜の木、全部買いましょう」ということになった。桜の木を買って何にすると思いますか？

ねじ：ええ！。何にするんやろう…。（二人ともしばし考え込む）

福井：正解は版木。大阪の版木屋さんに売るため、商人が買いに来た。吉野山としても困っておったので、「買うてもうたらええやん」と。

ねじ：（心配そうな顔で、息をのむ）

福井：しかし桜を切った後、何を植えるか考えないかん（有用な材となる、杉や桧を植林しようという動きもあった）。それで相談に行った。

ねじ：誰にですか？

福井：ヒントはその頃一番の山持ちさん。

ねじ：川上村の…。あの方ですか？

福井：そう。土倉庄三郎（※1）さんに相談に行った。そうしたら怒られて。これから、よその国と交渉しなきゃいけないことがいっぱい出てくる。その時に日本の国を紹介するために「吉野山の桜」がなかったら、どうするんだって。

ねじ：すごいなあ…。

福井：大阪の商人に売るんなら、それを全部私が同じ値段で買いましょう。しっかり桜を守りなさいと。

ねじ：かっこいいですね。

福井：それで、桜が全部助かった。そこから、今度は桜を守るためには、じゃあどうしたらいいかっていう議論が起こった。今まではご神木だったからみんな当たり前に桜を守ってきた。それだけでは守りきれない。

ねじ：どうしたらいいんやろう…。

福井：そこで財団法人っていう方法が出てきたわけ。今ある公園地をみな財団の財産にして、桜を維持するやり方を仕切り直そう、と話が出てきた。それで大正3年（1914）に趣意書ができあがり、大正5年（1916）に認可がおりた。

ねじ：それが、吉野山保勝会の始まりなんですね。

福井：実は、「桜を維持するために保勝会を設立した」というようなことは、趣意書にちょっとしか書いていない。

ねじ：ええ！どういうことですか。

福井：趣意書には、初めの方に長々と南朝遺跡（※2）を守るということが書いてある。南朝遺跡を守っていくとともに、吉野山の桜を守るという文面になっているんです。

ねじ：土地の歴史や文化も含めて守っていこうという、いろんな知恵の中でできたのが保勝会という形なんですね。

福井：組織のことやからそりゃ浮き沈みもある。100年も続いてきたのやから、ほんとにしんどい時も必ずある。特に太平洋戦争の後は大変やった。日本中の人が食うことに精いっぱいのときに、桜にかまっとる暇はないから。

ねじ：たしかに、そうですね。

福井：でも、「そういう大変な時に桜を維持してくれた人が、我々の先輩におる」ということを、100周年をきっかけとしてみんなに分かってもらうようにしたいと思っていて。君らには、そのとっかかりの文章を書いてほしいんです。（わははと笑いながら）

ねじ：わあ、大役だ。でも今、私らが桜を見られるのも、守ってきてくれた人たちの思いの結晶なんやなと思うと…。

福井：本当にありがたい。そう、それがほんまに切実な思い。

ねじ：すごいことやなあと思います。（二人顔を見合わせて）

保勝会の成り立ちについて語る理事長の福井良盟さん

仙人になれたら

ねじ：現在の主な活動についても教えていただけますか。

福井：今の仕事はね。要するに一言で言えば桜を守っていくこと（笑）。

ねじ：ふふふ。どのような方法で行うのですか。

福井：桜を守る方法については、今まで確立されていなかったところもある。けれど今は町としても「桜の学校」などの取り組みをやってくれています。桜も生き物やからね。こうすりゃよいと、型にはめて機械を作るようにはいかんでしょ。

ねじ：そうですね。

福井：「吉野山はこういうふうに桜を守っていく」という意識を、きちんとみんなが持てるようなやり方を確立しないと。今までは、「桜の枝を一本折るものは、指一本折る」というくらい、とにかく桜を大事にしてきたけど。

ねじ：わあ…。

福井：比喩やけど、そんな言葉もあるくらい大事にしていた。そういう伝統も受け継がないといかんし、生物学的な部分も大事にせないかん。どっちがいいかは、そりゃ桜に聞かないと分からん。

桜マメ知識：日本では固有種・交配種を含め600種以上の品種が確認されている。特に江戸末期に出たソメイヨシノ（染井吉野）は明治以降日本全国各地に広まり、サクラの中で最も多く植えられた品種となっている。

ねじ：いい塩梅って難しいですね。
福井：私の現在の目標は桜の木とお話すること。それができたら答えが分かるから。桜の木とお話できるのは誰か。
ねじ：そんな人いるんですか？
福井：仙人ならできるでしょ。その仙人になりたい。（わははと大きく笑う）
ねじ：ふふふ、吉野の四仙（※3）ですね（笑）
福井：花っていうのはね、土壌によって変わる。宗教の世界でいえば土壌っていうのはそこに住んでいる人間のこと。土壌の伝統を継いでいくのが、吉野を守っていくということになるんでしょう。だから、ねじまき堂も土壌の一つ（笑）。
ねじ：ふふ。私たちも土壌になれるんかなあ。みんなの意識とか思いとか、全部含めてどう守っていくかっていうのが大切なんですね。

次の世代へ伝えたいこと

ここからは、副理事長の藤井泰育さん・専務理事の車田修平さん・事業部長の龍見伸輔さんにもお集まりいただき、日々の活動と桜に対する思いを伺いました。

ねじ：保勝会の会員になられてどのくらいになるのですか。
藤井：20何年ほどですかね。
ねじ：長いですね。これまで、どのような思いで活動されてきたのですか。
藤井：吉野山の皆で協力して、桜を守っていこうという気持ちで頑張ってきました。当時は資金面も苦しかったし、吉野山の一部の人たちだけで運営されていたんです。最初の頃は、保勝会に対する不満もたくさんありましたね。
ねじ：そうだったんですね。
藤井：理事と評議員に分かれているんですけど、喧々諤々の意見も出て。今までそういう意見を言い合える場所もなかったからね。会議が深夜を回ることもありました。
ねじ：現在の保勝会の雰囲気はどうですか。
藤井：おかげさまで、だいぶみなさんの理解も得られるようになって。経済的にも全国のみなさんから寄付をいただいたりして、うまく回っているような状態です。日本一の桜を後世に伝えていくのが私たちの大きな役目ですので、これからも力を合わせて頑張りたいと思います。
車田：完璧やな。もう言うことない（笑）
ねじ：そんなこと言わずに！ホームページを拝見したのですが、いろんな世代の方で構成されているんですね。
藤井：やっぱり若い人らにも入ってもらって、保勝会の中身を知ってもらわんと。一変に変わらないで、順繰り順繰り。ゆっくりと進化を続けています。
車田：今、副理事長が言ったように、我々も年いってくるし口は動くけど、体は動かんような状態になってくるから。後継者をまず育てるのが一番の問題です。それと、公園を管理してくれている桜守さん。あの人らの後継者を育てるのも一つの課題です。
ねじ：そうか。次の世代に繋いでいくんですね。
龍見：もう、それくらいで止めといてくれますか。言うことなくなる。
一同：わはは。
龍見：今まで保勝会って言いましたら、桜を「守る」ということを頑張ってきたんやけども。今は「育てる」ことにも力を入れています。次の代に継承していこうと思ったら、桜の数を減らさないことが大切です。
福井：「吉野山のシロヤマザクラのなかから母樹を決めて、さくらんぼから苗を育てましょう」というのが今の保勝会の目標です。いろんなことを試してみないとね。
龍見：企業との連携でいろんな活動をしていくなかでね、私らも一緒になって勉強してきて、みんな知識が高まってきているなと思うんです。それをまた次の代の子らに教えることも、我々の仕事だと思ってます。

左から吉野山保勝会 事業部長の龍見伸輔さん、専務理事の車田修平さん

福井：それに桜って交配しやすいんです。
ねじ：そうなんですね。
福井：だから原種を守るのは非常に難しい。特に実生（種から育てる方法）で守るのは。そういうことをやっていくのが吉野山保勝会の役割だって思っています。
龍見：あと3～4年で、実際に私たちが種から育てた苗を山に返すことができるんです。
ねじ：藤井さんは前理事長と伺いました。
藤井：はい、そうです。
福井：桜を守る責任というのは、一度、理事長になったら消えるもんではない。一度長になったら、次の年は副で残るって決めてね。地域のなかで組織を作っていくには、柔軟性と硬さと両方が必要やからね。
ねじ：繋がりが続いていくんですね。保勝会設立100周年の記念式典が、2016年に行われると伺ったんですが、みなさんに意気込みを伺ってもいいですか。
藤井：それは理事長から。
福井：保勝会が作られた頃の資料を今集めていますが、そりゃもう大変な努力やった。全く何にもないところからのスタートやから。そのときの苦労というのは並大抵のことではない。資料を見るたびに、ものすごいエネルギーが伝わってくるからね。その人たちの気持ちを少しでも理解して、新たに次の100年へ、というくらいのことはしていかないと、とは思っています。
ねじ：今年見る桜は、今までと少し違って見えそうです。
福井：桜に対して思いを一つにできるように。吉野山に住む人全体の共通認識がもてるような取組も、100周年を期に始めていきたいと思っています。吉野の桜が喜ぶほうへ進んでいきたいですね。

※1 土倉庄三郎氏…明治時代、林業の発展に力を尽くした川上村の山林大地主。「吉野林業の父」とも言われる。
※2 南朝…南北朝時代、京都の北朝に対して後醍醐天皇が開いた吉野山にあった朝廷。吉野朝。
※3 吉野の四仙…吉野の地で修行を積んだといわれる「大伴仙・安曇仙・久米仙」吉野の三仙をもじって。

公益財団法人吉野山保勝会は吉野山における史跡、名勝その他文化財を永遠に保存することを目標に、大正五年に設立されました。桜の保護育成及び世界遺産吉野山の文化的景観の維持及び改善の活動に取り組んでいます。詳しい活動についてはホームページをご覧下さい

公益財団法人 吉野山保勝会
住所：〒639 - 3115 奈良県吉野郡吉野町吉野山 2403
時間：平日午前９時～午後４時
TEL：0746-32-1877 / FAX：0746-32-1217
ホームページ： http://www.hoshoukai.yoshino.jp
E-mail： hoshoukai@cap.ocn.ne.jp

吉野山の桜 1

御所桜（中千本・南朝宮跡）
蔵王堂境内威徳天満宮横の階段を下りた所が、昔南朝皇居があった場所。ここに南朝 57 年を偲び後醍醐天皇 496 回忌に植えられたのが、「御所桜」と呼ばれるシロヤマザクラ。

夢見桜（上千本・桜本坊）
大海人皇子（天武天皇）が夢に見た桜。冬の夜に桜花爛漫の夢を見、翌朝起きてみると吉野山でこの桜 1 本だけが咲いていた。これは吉兆と占い、その後壬申の乱に勝利した天武天皇が、この桜木の下に寺を建てて桜本坊とした。

天人桜（上千本・竹林院群芳園）
うす紅のしだれ彼岸桜で紅と白の中間の花が咲く。吉野山内では最も長寿の老木といわれている。

布引の桜（上千本）
上千本、天王橋から猿引坂にかけての左右にある桜並木。春の花盛りになると、あたかも布を敷きつめたように桜の花が咲き誇ることからこの名がついた。

滝桜（上千本）
花矢倉付近一帯の桜群。花の盛りに中千本から見上げると、満開の桜花が滝の一時にたぎり落ちるような壮観を呈するのでこの名前がつけられた。

桜マメ知識：日本の山に野生する桜はヤマザクラ、オオシマザクラなど９種を基本に、さらにこれらの変種を合わせると 100 種にもなる。吉野山にはシロヤマザクラを中心に約 200 種３万本の桜が密集している。

桜のはなし 桜守さんの仕事

吉野山は、標高によって「下千本」「中千本」「上千本」「奥千本」と呼ばれる4つのエリアに分かれています。山裾から山頂に向かって緩やかに開花が進み、約1か月にわたりその花を楽しむことができます。山肌に広がる桜の樹林は、約50ヘクタールにも及びます。日々、その手入れや管理を行っているのは「桜守」と呼ばれる人たちです。

ひときわ冷たい風が吹く、2月のある日。桜の苗を運ぶための線架けを行うという、3人の桜守さんにお話を伺いました。

「吉野の桜は1300年の吉野の伝統文化そのものですねん」。そう語るのは、紺谷與三一さん。その歴史は修験道の開祖役行者が、桜の木に蔵王権現の像を刻んだことに始まると伝わります。平安時代になると、信仰の証として、盛んに桜の献木が行われるようになりました。吉野の桜の多くは、「シロヤマザクラ」と呼ばれる日本古来の野生種です。一般的に知られているソメイヨシノは「サトザクラ」といわれ、人の手によって品種改良されたもので、葉が出る前に花をつけるため、豪華で華やかな印象を与えます。が、一方のシロヤマザクラは新芽が出た後、その付け根から薄紅色の花の房が顔を出します。新芽が太陽の光を受けると、山全体が淡いピンク色に染まるといいます。「人間で言うたら、気品や奥ゆかしさがある」。紺谷さんは、その美しさをこのように表現します。

桜守の仕事の内容は、1年を通して多岐にわたります。教えてくれたのは、一杉甲子彦さんこの道30年の大ベテランです。桜は紅葉の季節が終わると、翌年新芽が出るまでの間、いわゆる冬眠期間に入ります。11月から3月の、桜が活動を停止するこの期間は1年で一番仕事が多いといいます。そのひとつに挙げられるのが、苗の植樹です。この作業は年に2回。晩秋と年が明けてから行われます。今年の秋には70本。2月には、さらに85本植えるといいます。鹿の食害から防ぐために、1本ずつの苗に目を配りながら手入れを続けます。他にも、施肥・枯損木の伐採・コケやヤドリギの除去など、いくつもの作業を並行して進めていきます。3月に入り気候がよくなると、新芽が芽吹き、桜の活動も活発になってきます。それと同時に、青々とした草木が生い茂るようになります。1年を通しての大仕事は、なんといっても下草刈りです。雨の日以外はほぼ毎日山に入り、時には傾斜70度にもなる急斜面で作業を続けます。

「吉野のシロヤマザクラのブランドを守り伝えていく」。そんな思いから吉野山保勝会では、1本の母樹から拾ったさくらんぼの種を植え、苗木を育成する試みを行っています。母樹となるのは、樹齢80年ほどの枝ぶりが良く、健康なシロヤマザクラ。毎年6月頃になると黒く熟したさくらんぼが地面に落ち始めます。拾った実は1週間ほど水につけて種の状態に。それから約8ヶ月間、土の中で保存します。翌年2月、取り出した種を蒔くと、4月中旬頃から新芽が顔を出し始めるといいます。1年経つと苗は1mほどの大きさに。その後、苗育成園で5年間大切に育てられ、植樹の時を迎えます。

シロヤマザクラの寿命は、桜の中では比較的長寿の類に入ります。長生きするもので、120～130年。現在、桜の寿命を縮めるナラタケ菌やヤドリギが、大きな問題となっています。1本枯れたら、2本3本と植えていく。100年先に吉野の桜を伝えるため、桜を守る手当てとともに、新たな苗を育てる作業が続けられています。

地元、吉野山で暮らす宮崎正芳さんは、この仕事を始めて2年半になります。体を動かしながら、1つ1つ作業を覚えていきます。「まだ喜びよりも、大変な気持ちが大きいですね」。そう語る宮崎さんに、紺谷さんが声をかけます。

「吉野山の伝統文化を守らしてもろうてる。長年やってたら、喜びもまた味わえるわ」。

「4月になると、今年もこの季節が返ってきたなあ、という感じがするねん」。

100年先にこの風景を目にする人の顔を思い浮かべ、今日も3人は手を動かします。うっすら雪化粧をした山々は、桜の季節を静かに待っています。

● 桜守さんおすすめの時間帯は

早朝です。朝日とともに見る桜は朝露に映え、柔らかな光のなか美しく輝きを放っています。

11 月～2 月半ばくらいの冬の時期に桜を植える。まず、杭を打って植える間隔を決める。

桜守さんの車にはたくさんの道具が積まれていた。

3人の桜守さん。左から紺谷與三一さん、一杉甲子彦さん、宮崎正芳さん

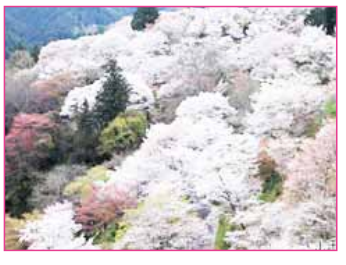
すでに植えられた桜のまわりに竹の添え木のようなものがしてあった。鹿が木の皮を剥ぐのを防ぐためとのこと。

吉野山は急斜面が多い。架線を貼って、それを使って木の苗や道具を上げる。

吉野山の桜 2

ほおづき尾 (下千本)

吉野駅の東側にある桜の群落。太閤秀吉が吉野の花見の際に愛でたと言われこの地に似ていたことから、京都桂川上流の「保津峡」が名づけられたと言われる。



七曲りの桜 (下千本)

吉野山下千本観光駐車場や昭憲皇太后御野立跡付近から一望できる桜。「これはこれはとばかり花の吉野山」と安原貞室が詠んだのがこのあたりの桜。

関屋桜 (下千本)

ロープウェイ山上駅から黒門付近の桜。かつて黒門は関所とされ、付近の坂道を関屋坂という。昭和初年頃まで老桜があり、このあたりの桜は関屋の桜と呼ばれた。

嵐山の桜 (下千本)

下千本観光駐車場東側にある山を嵐山と呼び、このあたりの桜を嵐山の桜という。亀山上皇は、嵯峨に離宮を造営されたとき、吉野山の桜を洛西の地に移植され、吉野の嵐山に模して嵐山の名をつけられた。

四本桜 (中千本・金峯山寺蔵王堂)

蔵王堂の正面にある四本の桜。元弘3（1333）年北条方に攻められた大塔宮護良親王（後醍醐天皇の第3皇子）は、吉野城落城寸前にこの桜の前で最後の酒宴をしたといわれる。

桜マメ知識：サクラの「サ」は、サ・ツキ、サ・ナエなどと同じ稲の神を表すとされる「サ」に神が宿るところの「クラ」がついたもので、その年の実りを約束する稲魂の宿る神聖な木であると考えられた。

吉野山桜の学校

吉野山の桜は長い間、神木として信仰され、人々の手で植えられ、現在のように群生してきました。その桜の多くは、もともと自然に生息する野生種のヤマザクラです。公園でよくみるソメイヨシノは、花が葉よりも先に咲き、花と葉が一緒に咲くヤマザクラとは異なります。ソメイヨシノは種子から増えることはできない、接木（つぎき）などで増える（そのため同じ遺伝情報からなる）クローン植物のため、病害虫に弱く、寿命も60年といわれています。一方、ヤマザクラは種子を作り寿命も約100年～400年とされ、急斜面で霧の多い、この奥深い山里に適しているといえます。

しかし、平成になってから、このヤマザクラの元気がなくなってきたといわれ始めました。平成7年には奈良県による桜の衰退調査が行われ、吉野山の桜の衰退は寿命、環境の変化、病虫害の発生（ナラタケ属菌類への感染）等の影響と報告されています。また、平成23年には、吉野町によって、ヘリコプターでレーザー光線を照射する「リモートセンシング調査」を行い、地上だけでなく、上空からも桜の生育状況を調査しました。

このような経緯を踏まえ、これらの問題について解決策を見つけていこうと、平成24年2月にできたのが「吉野山桜の学校」です。活動の拠点は吉野山ふるさとセンター（旧吉野山小学校）。保勝会、自治会、吉野山観光協会を始めとする10の団体に加え、地元出身の樹木医 中野悟先生を迎え、桜の保護保全を目指して活動を進めています。

現在、吉野山地内での実証実験を踏まえ、桜を守っていくための桜管理マニュアルを作成しています。データとして記録に残し、みんなが統一した管理を行っていける体制づくりを目指しています。これからも桜を守り育てていくために、共に手を取り合い、長期的な視点を持って、桜と向き合っていくことが大切だと考えています。

吉野山ふるさとセンター

吉野山桜の学校参加団体

金峯山寺
奈良県自然環境課
吉野山自治会
一般財団法人 22 世紀吉野桜を愛でる会
吉野山観光協会
吉野の桜を守る会（事務局：読売新聞 大阪本社）
公益財団法人吉野山保勝会
吉野町
（オブザーバー）
奈良県教育委員会　文化財保存課
環境省近畿地方環境事務所吉野自然保護官事務所

さくらんぼひろい

吉野町立吉野保育所、吉野幼稚園、吉野小学校では子どもたちの手でさくらんぼを拾い、育て、植える「さくらんぼひろい」活動を行っています。吉野山の桜は、自然と咲くのではなく、長年にわたってたくさんの人が守り育ててきたことを知ってほしい、吉野への愛情を深め、吉野を大好きな子どもになってほしいという、願いが込められた活動です。

桜守さんのお話を聞く

さくらんぼの種をさがす

ひろった種を見てもらう

種を洗って容器に入れる→水を入れる

桜のまち吉野から　吉野町長　北岡 篤

向春の候、皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本町への温かいご支援・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

吉野山の桜の成り立ちというのは、信仰の歴史と深い関わりがあります。その歴史は 1300 年前まで遡ることができ、桜は今日まで蔵王権現の御神木として大切に守り育てられてきました。

私たちの町では「吉野木のまち、桜のまち、おもてなしのまち」をスローガンに掲げています。「木のまち」は林業をはじめとする産業、「桜のまち」は歴史文化、「おもてなしのまち」は観光。これは、この町が持つ３つの宝物を象徴しています。吉野町といえば、どこに行ってもまず「桜の吉野ですよね」とお声がけをいただき、私たちが大切にしている吉野のイメージを、みなさまにもお持ちいただけているのは、本当にありがたいことだと感じています。

現在、町内では吉野山以外の地域でも、地域の方のご協力のもと桜の植樹を行っています。また、桜の育て方についても、面白い取り組みを行っています。それは卒業記念の植樹です。地元の子どもたちが、吉野山のシロヤマザクラのさくらんぼを拾って、その種を自分たちで苗に育てるのです。ただ単に植えるのではなくて、「自分たちでつくる」という形を大切にしています。気持ちをこめて植えるためには、種を蒔いて、芽が出て、苗を植えて。そういう過程を楽しめるような仕組みが大切だと思うからです。

「町民でつくる」桜の森が広がっていけば、それは吉野町自身の町づくりの象徴にもなります。このような取り組みをまずは町のなかで、ゆっくりとしっかりと根づかせること。また吉野から全国へと発信していくことが、今の思いです。皆様、今後とも、どうぞご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

吉野のゆるキャラ「吉野ピンクル」は桜の妖精です。

吉野山の伝統を継ぐ

吉野山の桜が一番の見頃を迎える頃。毎年4月11日と12日に、吉野山では「花供懺法会」とよばれる行事が行われます。大名行列で先頭を歩く「奴行列」は、吉野山の若手で結成される「奴保存会」というつながりの中で活動しています。今回は「吉野山の伝統を継ぐ」というテーマで、保存会の皆さんにお話をうかがいました。

左から辻村佳則さん、山本英樹さん、増田将也さん

吉野山の桜は、修験道の開祖役行者が感得した蔵王権現を桜の木に刻んだことからご神木となり、献木され保護されてきたものです。その御神木の山桜の満開を、ご本尊蔵王権現に報告する「花供懺法会」は、その意味からも春の吉野山のメインイベントといえる行事です。

今回お話を伺ったのは、吉野山が地元の4名のみなさん。葛菓子のお店を営む辻村佳則さん、町役場に勤める山本英樹さん、柿の葉寿司のお店の4代目龍見直人さん、旅館の若旦那増田将也さんです。やわらかい雰囲気のなか、ぽつりぽつりとお話が始まりました。

地域に根づく行事

ねじまき堂（以下ねじ）：奴踊りは、何人くらいで行うのですか。

辻村：最低15人が必要です。

山本：人数を増やすことはできるけど、15人をきったら隊列のどこかが欠けてしまうんです。

ねじ：どのようなコースを行くんですか。

辻村：竹林院スタートで蔵王堂着です。その間を練り歩く感じです。

増田：基本は、お寺や神社の前で踊るという感じですね。

ねじ：年齢には、決まりってあるのですか。

辻村：上が40歳までというのが、今までの通例です。40歳になったら卒業。

龍見：下は、10代後半から。学校があるので、多分高校出てからくらいやと思います。

ねじ：メンバーにはどのような方がおられるんですか。

辻村：基本は吉野山の旅館や商店会の方。英樹（山本さん）のように、役場の職員さんもいます。

山本：吉野山生まれであったり、現在も住んでいたり、ゆかりのある人たちが参加している感じですね。

ねじ：何年くらい続いているものなんですか。

増田：行事自体の歴史は、相当古いはずです。

龍見：奴保存会が結成されたのは、僕らの親父くらいの世代からやと思います。

ねじ：なにかきっかけがあったのですか。

辻村：もともと左曽（吉野町）、才谷・立石（下市町）あたりの人にお願いしてたらしいです。（これらの地域は金峯山寺の寺領であった）お金で雇ってお願いしていたけど、人手が足りなくなって。その頃に地元の若い世代の人らのあいだで「俺らでやろうよ」って話になったと。

ねじ：すごいパワーですね。

それぞれの役割

ねじ：みなさん踊るときには、手に色々な道具を持っていらっしゃるんですね。

龍見：これは得物というんです。

ねじ：それぞれに役割があるんですか。

辻村：先達というのがあって。僕はそれです。

ねじ：先達さんは何も持たないんですね。先達さんはお一人ですか？

辻村：はい。

山本：先頭で声を出しながら全体を仕切っていく役割です。先達は、声が通って、男前で…。

増田：いつ回転するかとか、指示を出すのも先達の仕事ですね。見栄えがある人っていうのは、聞いたことあるなあ。

ねじ：センター的な…AKBみたいですね（笑）

山本：いろいろな要素を兼ね備えた人が先達になるんやと思います。

辻村：ハードルあげんなよ、そんなええもんちゃう（笑いながら）。

山本：先達だけ、少しだけ衣装も違うねん。桜の模様が入ってて。

ねじ：センター衣装ですね。その辺りも注目ですね。

山本：それに続くのが、挟箱。それを持つのは身体がごつくて、力のある子が担当してくれています。

辻村：直人は、挟箱やっけ。（龍見さんに向かって）

ねじ：重いですか？

龍見：重いですねえ。肩で支えていたらそんなに重くないんですけど、持ち上げるときは重いです。

山本：ただ割り当てているわけではなくて、それぞれの適正に合ったように配役があって。

ねじ：そういう見方で見たらより面白いですね。

辻村：挟箱の次は、大鳥（大鳥毛）。カラスの羽みたいなんがついた。

ねじ：大鳥さんの次は？

龍見：毛槍です。槍の先に鳥の羽がついたもので、大鳥より小ぶりです。

ねじ：くるりと回すときれいなあれですね。

山本：それから、台傘。別名そろばん。

ねじ：そろばん？

山本：槍の先に、布で包まれたそろばんの玉みたいなやつがついてるねん。

増田：最後は立傘。

ねじ：山本さんは、何の担当ですか。

山本：俺は、立傘。いつも最後の方。

ねじ：増田さんは。

増田：僕は、毎回ばらばらなんですよ。傘とか、挟箱とか。

ねじ：見どころは、どんなところですか？

辻村：先達以外は二人一組になるんですけど、得物を持ちかえるときに、くるりと回転するところですかね。

ねじ：動きがあると見栄えがしますね。みんなに見られるから、当日までに体をしぼったりするんですか？

一同：わはは。

山本：初めて聞かれたわ。

辻村：見られるの恥ずかしいから、日本酒をしこたま飲んだり。そうすると声もよく出るので。

左から増田将也さん、龍見直人さん

花供懺法会マメ知識：花供会式ともいう。1000年の歴史を持つ金峯山寺の伝統法会。毎年4月11日～4月12日に、大名行列、法会、採灯大護摩、餅まきなどの行事を行う。

左から辻村佳則さん、山本英樹さん

ねじ：みなさんは、何年くらい踊ってはるんですか。
辻村：僕は東京で働いていて。30歳で帰ってきたから、10年。去年で卒業だったんです。
山本：24歳からやってるから、15年踊った。今39歳やから、今年で最後やなあ。
一同：おお！長い。
龍見：6年くらいですかね。
増田：僕も同じく6年。長い人は、20年くらい踊るなあ。

楽しみながら伝えていく

ねじ：龍見さんと増田さんは、お父さんも奴の踊り手だったと伺いました。お父さんからアドバイスはありましたか。
龍見：父からは、しっかり踊れよとダメ出しされました。
ねじ：小さい頃は、やはり格好いいなと思って見ていたんですか。
龍見：子供のころは、やっぱり憧れてましたね。
辻村：俺ら、便所掃除のほうき出してきて真似してたなあ。
ねじ：あら、かわいい。
辻村：なんかねえ。かっこいいなと思ってたんでしょうね。
ねじ：子供たちが憧れる存在であることは、大事ですよね。続けていくうえでも。
増田：父とは、風呂場で一緒に練習しましたね。あと、直人とも一緒に自主練したなあ。
龍見：ああ、したなあ。
山本：新しい子は基本の踊り方がすぐにはできへんから、練習日以外にも近所の子が教えたったりとかして。先輩が新人を指導して伝えていくからね。
ねじ：それにしても4月11日・12日のあたりは、桜のまっさかりですよね。
増田：ほんま一年で一番忙しい時期です。本当はこんなこと、やっている場合とちゃうんですけどね（笑）。
辻村：まあ仕事は気にかかるけど、ちょっと一息みたいな感じもあります。こんなことない限り、この時期、店の外に出て行かれへんやん。
山本：いま一番の課題があって。それは、人集め。年々、人の確保が難しくなっているんです。
辻村：会社員の方とかは、仕事を休んでくれたりもするねんけど。平日に2日休むっていうのもなかなか難しかったりするから。
山本：みんななんとか日を合わせて。
ねじ：大変ですね。でも、吉野山ではちゃんとつながりが大切にされているんですね。
辻村：10年前に帰ってきたときに、吉野山の「三種の神器や」って。消防団、商工会、それから奴保存会に入れられて。
一同：わはは（笑）。
増田：奴保存会の活動は、面白さがあるからな。
辻村：規律はあるし伝統も深いけど、楽しくやっているところはあるな。
ねじ：お話の感じからも、楽しげな雰囲気が伝わってきます。
辻村：踊りなんてやったことなかったし、最初はタコかイカか分からんような踊りやったけど、先達までいかせてもろうて。上の人からは、声の出し方から踊り方から、厳しいご指導をたくさんいただきました。光栄やけど、伝統のプレッシャーも感じながら、やらせてもらってきました。
ねじ：伝説の踊り手とかっているんですか。
辻村：昔の人らはすごかったって聞くな。得物をひょいっと投げて渡してたって。今やったら重いからふつうに手渡しやけど、派手な感じで。お客さんもわーって喜んだって。
ねじ：お祭りの時って、男の人がかっこよく見えます。凛々しいというか。
増田：どうせ先達だけでしょ。
ねじ：みなさん格好いいですよ！（笑）。それでは最後に、次の世代に手渡すことへの思いを教えてください。
辻村：テレビ番組みたいに聞いてあげて。
ねじ：分かりました。「最後に聞いてみました。あなたにとって奴とは？」
一同：わはは（大笑い）。
増田：難しいとんちやなあ。
ねじ：とんち、違います（笑）。
龍見：「伝統を守ること」ですかね。
山本：自分が生まれ育った吉野山っていう土地の文化やから、もちろん後にも引き継いでいかなあかんという気持ちと。やっぱり自分たちが楽しんでやっているから、これからの人にもその楽しさを伝えていきたいですね。
ねじ：今年も格好いい踊りをよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

●先輩にも聞いてみました。
ねじ：花供会式の思い出を教えてください。
龍見伸輔（たつみしんすけ）氏：2日間、吉野山で一番忙しい時に出るんやからね。寝る間も惜しんで仕事して、お練りも出ておったからね。まあ、ほんまにしんどかったねえ。今、息子も出てますけど、「しんどい顔をしたらあかんで」って言うてます。それだけは見てて、大事やなと思うわ。
田中敏雄（たなかとしお）氏：初めての年、僕は大鳥毛の担当やった。ずいぶん重くて回転させるたびに、手がこすれて本当に痛かった。行列が宮坂に差し掛かったとき、ずる剥けになった手の皮を見て、観光客の人たちが駆け寄ってきて「頑張れ」って手の平じゅうに絆創膏を貼ってくれた。忘れられない思い出です。今、踊りに参加している自分の息子にも、一生懸命やってもらいたいと思います。

花供懺法会 奴行列 写真館

竹林院を出発した一行は、勝手神社へ。

奴行列の先頭は先達。衣装も少し違う。

先達の後には、挟箱・大鳥が続く。

先達は、奴行列の動きを指揮する。

蔵王堂に着くと法会がはじまる。

そろばんのような形の台傘。後には、立傘が続く。

大鳥の後には、背が高く、一回り小ぶりの毛槍。

くるりとまわると一層人目を引く大鳥。

昔の奴行列の写真。たくさんの見物客が印象的。

現在の奴保存会のみなさん

「西国三十三所名所図会」に描かれた大名行列の様子。今は見ることのできない「ヤリ」の姿も描かれており、当時の様子が伝わってくる。

花供懺法会マメ知識：4月10日の「花供千本づき」でついた餅は蔵王権現にお供えした後、次の日に「餅まき」で振舞われる。その餅を食べるとその年は無病息災で過ごせるといわれている。

「吉野の桜を守る会」は吉野の桜を守るための支援をお願いしています。

奈良県吉野町の住民らが約 1300 年間、大切に守ってきた吉野山のサクラの群生地は、世界遺産に登録されています。しかし、立ち枯れ被害などに見舞われており、このままでは貴重な自然景観が損なわれる恐れがあります。このため地域団体や奈良県、吉野町、読売新聞大阪本社は「吉野の桜を守る会」を設立しました。今後地元で進めていくサクラの保護、育成活動に役立てる資金の一助として皆様の善意のご協力をお願いします。寄付金は吉野町に全額送られます。詳細のお問い合わせは「吉野の桜を守る会」（事務局は読売新聞社大阪本社事業本部内）TEL: ０６－６３６６－１８４８まで。

寄附の方法

郵便振替口座	00970-8-248200
加入者名	吉野の桜を守る会
手数料	各自でご負担をお願いします。
通信欄	寄付者名を、読売新聞地域版 (大阪本社、西部本社) に掲載します。匿名希望の方はその旨を明記してください。

※専用の振込み用紙をお使いいただくか、上記口座への振込みによって行っていただけます。 ※お名前を読売新聞に掲載します。匿名希望の方は通信欄にそうお書きください。※所得控除を証明する領収書発行のため、寄付者の住所、氏名など個人情報が吉野町へ提出されます。これ以外の目的には使用しません。

吉野山 春のおすすめ情報

金峯山寺蔵王堂 秘仏本尊特別ご開帳

3 月 28 日（土）～ 5 月 6 日（水・休）

我国独自の宗教・修験道の根本道場である世界遺産金峯山寺のご本尊・金剛蔵王大権現三体を特別にご開帳いたします。

【時間】午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分
(受付は午後 4時まで)
【拝観料】大人 1000 円　中高生 800 円
小学生 600 円
【場所】金峯山寺蔵王堂
【お問合せ】☎ 0746-32-8371　金峯山寺

吉野山内秘蔵大絵巻展

3 月 28 日 (土) ～ 5 月 6 日 (水・休)

普段は公開することがない、吉野山内に伝わる絵巻や古図を特別に公開します。この機会に是非、江戸の昔の吉野山に思いを馳せてください。

【時間】午前 9 時～午後 4 時
【列品解説】4 月 9 日 (木)・16 日 (木)
午前 11 時、午後 1 時 各 2 回
【入館料】大人 200 円
【場所】金峯山寺聚法殿
（吉野山ビジターセンター）
【お問い合わせ】☎ 0746-32-3081
吉野町文化観光交流課

吉野山二月会式正頭略縁起絵巻（部分）竹林院蔵

宿泊者限定 夜間拝感

～声明と闇に浮かぶ秘仏蔵王権現 ～

3 月 29 日 (日)、4 月 4 日 (土)・5 (日)・25 日 (土)・26 (日)・28 (火)、5 月 1 日 (金)・2 日 (土)・4 日 (月)・5 (火) 全 10 夜

吉野山の宿泊施設にご宿泊の方限定で、蔵王権現を夜間に拝観いただけます。

【拝観料】3000 円
＊夜間拝観希望の方は、宿泊予約の際に予約が必要。
【場所】金峯山寺蔵王堂内
【定員】15~100 名（小学生以上、先着順）
【お問合せ】☎ 0746-32-1007
吉野山観光協会

花供懺法会

4 月 10 日（金）～ 4 月 12 日（日）

ご神木の山桜の満開をご本尊蔵王権現に報告する行事。奴行列を先頭に金峯山寺の鬼・稚児・山伏・僧侶・大名籠が続く大名行列が竹林院を出発、金峯山寺へと向かいます。到着後は法会と大護摩供を行い、午後 1 時頃からは 10 日の「千本づき」でついた餅をまいて参拝者にふるまいます。

【10 日予定時間】
花供千本づき‥午後 1 時
女人採灯大護摩供修法‥午後 2 時
【11・12 日予定時間】
大名行列‥午前 10 時出発（竹林院）
花供懺法会‥午前 11 時頃
採灯大護摩供修法‥午後 1 時頃
餅まき‥午後 2 時頃
【場所】吉野山一帯・金峯山寺蔵王堂
【お問合せ】☎ 0746-32-8371　金峯山寺

発行元：吉野大峯世界遺産登録 10 周年記念事業協議会　〒 639-3192 奈良県吉野郡吉野町大字上市 80-1 TEL : 0746 (32) 3081　FAX : 0746 (32) 8855
特別協賛：近畿日本鉄道株式会社・株式会社南都銀行・総本山金峯山寺・吉野山自治会・吉野山観光協会・公益財団法人吉野山保勝会（順不同）
発行日：平成 27 年 2 月 15 日